

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成21年 1月 21日

【評価実施概要】

事業所番号	2274202486
法人名	株式会社 日本ケアクオリティ
事業所名	グループホーム ケアクオリティ アダージョ
所在地 (電話番号)	静岡市駿河区中田4丁目6-1 (054-284-7677)

評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成20年12月8日

【情報提供票より】(平成20年11月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 3 人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(65,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(平成20年11月18日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83.6 歳	最低 65 歳	最高 98 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	えんどう内科クリニック
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

環境に恵まれた静かな住宅街に建つホームである。管理者は裏方に徹し、介護現場は利用者を熟知する職員を信頼し任せているため、職員が利用者のケアや運営について積極的に意見を出し合い、アイデアを試みている。男性の介護支援専門員により利用者を尊重し自立を促すため、従来よりも大胆な支援が家族と相談のもと実行されており、利用者間にも良い影響を及ぼしている。「今までの暮らしと変わりなく自由度が高い」、「禁止事項が少なく過剰なレクリエーションもない」これらは回収された家族アンケートの殆どに書かれていた言葉である。管理者を中心にそれぞれが尊重しあう雰囲気の中、今後も利用者の笑顔が絶えないホーム作りが続けられることを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価結果については真摯に取り組んだことが伺える。特に、地域密着型サービスとしての理念が職員話し合いの元策定されていた。栄養摂取や水分確保の支援については保健所の食品衛生課へ一週間分の献立の写真を持って相談しており、適切な栄養摂取が出来るよう取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はユニットそれぞれ会議の時間を用いて全員で話し合いながら記入していった。自己の評価に伴いこれから取り組みたいことについても多くの意見が出ており、職員の前向きな姿に今後が楽しみである。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は今年2回目の会議が数日後に予定されている。1回目ではホームの紹介後、地域委員から認知症についての質問があり、正しい認識を持っていただくことができた。利用者代表も数名参加してホームでの生活を報告している。運営推進会議には、協力医や地域住民、ボランティア等もメンバーに入っていたり柔軟な意見の交換で利用者へのサービス向上に活かすことが望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	書面で、また家族訪問時に意見を促して、気軽に話し合える関係作りに努めているが、家族から苦情や要望は遠慮もあってなかなか上がらない。しかしそれこそがホーム改善の鍵であることとホーム運営は利用者・家族・職員で作上げてゆくものであることを理解していただき、沢山の家族からの意見でホームがより活性化されることを期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入して町内の清掃や避難訓練に参加している。切り絵の芸人さんを招いてのホームの敬老会には回覧板を廻して地域へ周知を図り、近隣の方々にも参加していただいた。地域のお祭りにはホームの通りに面した場所でバザーを催すなど利用者・職員が地域と交流する機会を積極的に作っている。実習に来た中高生や、公園でゲートボールをする方々との会話も楽しんでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員で作り上げた、地域密着型サービスとしての理念「ゆるやかなそよ風を 中田の町に吹かせよう」を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着の重要性は常々職員が認識しているところであり、理念の実現のために何をしたら良いのか、利用者と共に何が出来るのか話し合い、取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入して町内の清掃や避難訓練に参加している。切り絵の芸人さんを招いてのホームの敬老会には回覧板を廻して地域へ周知を図り、近隣の方々にも参加していただいた。地域のお祭りにはホームの通りに面した場所でバザーを催すなど利用者・職員が地域と交流する機会を積極的に作っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価をホーム運営に活かすべく謙虚な姿勢で取り組んでいる。前回評価については地域密着型サービスに相応しい理念の策定や栄養摂取についての要望に対して保健所の食品衛生課の協力を得て適切な栄養摂取支援が出来るよう取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今年2回目の会議が数日後に予定されている。1回目ではホームの紹介後、地域委員から認知症についての質問があり、正しい認識を持っていただくことができた。利用者代表も数名参加してホームでの生活を報告している。	○	運営推進会議には、協力医や地域住民、ボランティア等もメンバーに入っていただき柔軟な意見の交換で利用者へのサービス向上に活かすことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市とは運営推進会議等について実地指導を受けたり利用者の生活に関し福祉課と、また、権利擁護について社会福祉協議会と連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への定期的な報告として利用者毎の一ヶ月の様子を記入した月次報告書とホーム内の様子や行事でのスナップを掲載したホーム新聞「アンサンブル」を送付している。家族訪問時には会話にて、体調変化の連絡は電話でと家族と情報を共有できるよう取り組んでいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月次報告書には家族の意見を促す文言を添えており、ホーム新聞「アンサンブル」には行事予定を書き入れて家族の参加を呼びかけるなど何でも言い合える関係作りに努めているが家族から意見や要望は特に上がっていない。	○	家族はホームに対し意見や要望を出すことに遠慮がちであるが、意見や要望は改善の鍵である。ホームは利用者と家族と職員で作り上げてゆくものであることを理解して頂き、折にふれどんな意見でも出してもらえよう周知して頂きたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職することにより利用者にダメージを及ぼさないように普段からユニット間で交流をしてどの職員とも馴染めるよう配慮している。新しい職員には利用者とは話ができるように、しかし馴れ合いにならないように注意しながら、信頼関係作りに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の介護技術研修を日を分けて全員で受講している。外部研修には内容に相応しい職員に声をかけているが限られた職員となっている。ホーム会議の折に感染症・事故報告委員が法人から送られてくる研修材料について報告し、職員は学んでいる。また、訪問看護師から情報を共有するにはどうしたらよいか問題が提起されている。	○	職員の育成はホームにとって重要な課題である。職員のスキルに応じたOJT(職場内での実務研修)や研修機会の提供など望まれる。看護師や介護支援専門員の協力を得て、テーマを系統立てた年間計画による内部勉強会の充実を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人においても事業所間で職員の交流を推進しているが、職員の交換研修等の機会は出来ていない。	○	他事業所のアイディアを見たり、同じ悩みを持つ仲間と話し合ったり、自己の仕事を確認したりと、他事業所の見学は有益である。人手不足の折だが系列のホームとの交換研修等交流の機会を持ち双方の活性化に繋げるよう望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に家族や利用者から生活歴や暮らし方への意向等を詳細に聞き取ることで利用者理解を受け入れている。体験利用も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	開設時からの利用者も多く、歳月による機能低下は免れないが昔の体験談を話したり、料理を教えたりする時はやはり年長者である。利用者の不穏が続き職員が疲れきった時、利用者の一言で慰められたり年齢に関わらず可愛さを感じる言動、そんな日々のやり取りの中で互いに支えあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴や散歩など1対1になる時間を利用して語りかけている。表情や行動を見て判断したり訴えを見逃さないように努めている。職員がゆったりした気分であると利用者も落ち着いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニット会議の後でカンファレンスを行っており、出席できない職員はノートに意見を書いて会議に出している。家族には面会時に相談しており、変化が見られた場合にも家族と話し合い意見を取り入れた介護計画を作成している。今後本人や家族のカンファレンスへの参加も視野に入れている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一回モニタリングを行い、変化が見られない場合には継続としており、状態変化が見られた時には計画作成担当が家族や担当職員と話し合い現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族等から宿泊の要望があった時には対応できる。家族の状況に応じて通院も柔軟に支援している。訪問看護師との連携により医療面での安心がもたらされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・家族の希望により従来からのかかりつけ医に受診したり、ホームの協力医に受診している。通院は基本的に家族が付き添っているが、状況によっては職員が付き添っている。また週1度訪問看護師により健康チェックを受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	高齢によるADLの低下が否めない利用者もいるが、重度化や終末期に向けた方針等の話し合いはされていない。	○	今後の医療の方向性からもホームでの看取りは避けて通ることの出来ない問題であることを理解して職員の看護力や精神面でのフォローアップ等準備されることが望まれる。個々には家族や医師とどのような終末の迎え方を希望するのか話し合い、家族や職員が方針を共有して取り組むことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護の為に介護経過等記録類はインシヤルを用いている。職員は歩行に時間のかかる利用者にはトイレに行く時間を見計らってさりげない言葉掛けをしたり、食後の入れ歯の手入れを自室で行えるように配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームでは就寝や起床の時間も決まりはなく、食事時間も利用者の状態に柔軟に対応している。バイタル測定のときに利用者を良く観察して変化を見逃さないように、また意思を言葉で表わせない利用者の思いを極力受け止め、出来るだけ希望に添った時が過ごせるよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の献立は利用者の好みを聞いたり、冷蔵庫の中身を見ながら決めており、米研ぎや野菜切りなど利用者も職員と共に行っている。晩酌を楽しむ利用者もあり、ラーメンやチャーハン、ざる蕎麦など出前を持ってきていただくのも楽しみである。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて週2～3回は入浴していただいている。夕食後の入浴も希望があれば対応している。入浴の時間は1対1の大切なひとときであり楽しい会話が出来るよう努めている。また皮膚疾患がある場合には足浴で治癒を早めている。車椅子の利用者も二人がかりでの入浴をしております家族から感謝の声があった。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が得意としたピアノやギターが行事の中で披露されたり、釣り好きの利用者が魚を下ろしたり、洗濯物たたみ・食後の片付け、また外出して写真を撮ったり、教会の礼拝に毎週出掛けたり等、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割・楽しみごと・気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	男性の介護支援専門員により、従来よりも大胆な外出支援が家族と相談のもと実行されており、その影響か他の利用者也誘い合って二人で組んで散歩に行っている。一人ひとりその日の体調と希望により買い物、図書館、家族と外出等出かけられるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自由に散歩に出ている利用者もあり、家族の訪問も多く玄関は昼間は鍵をかけていない。夜間は安全の為に施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、ホームの防災訓練を消防署の協力を得て行っているが、地域の方々の参加協力を頂くまでには至っていない。町内での訓練には利用者と共に参加している。	○	グループホームでは夜間等の災害時に地域の方々の協力抜きでは考えられない。運営推進会議等で議題に上げて協力をお願いする等積極的な取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記録は取っており、体重測定と併せてカロリーの過不足はチェックしている。栄養ドリンクや乳酸飲料、ウイダーゼリー等、好みの補助食品も用意している。現在とろみ食を摂っている利用者もおり、状態や習慣に応じた栄養摂取が出来るよう支援している。	○	同じメニューが重ならない様に献立の見直しと水分摂取量把握の為の記録が望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の外にはベンチが置かれ利用者が気軽に外の空気を吸うことが出来るよう配慮している。居間にはみんなで飾ったクリスマスツリーが置かれている。壁には切り絵の芸人さんが訪問した時の切り絵や利用者が描いた似顔絵、濃淡も見事な墨絵の色紙が飾られていた。ホーム内の手すりは夜勤の職員が毎晩消毒をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	女性利用者の居室には箆笥や椅子、テレビ等が持込まれ、ご主人の位牌の前にはみかんが二つ供えられていた。男性利用者の居室には家族の写真が沢山飾られ枕元の箱には自身のことが掲載されている古い新聞記事が沢山入っており、折に触れ眺めて懐かしんでおり、本人がどこよりも安心していられる場所となっている。		